

令和3年度 長野県林業大学校 評価表

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

長野県林業大学校 教育方針	
<p>長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。</p> <p>1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。</p>	

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となる。しかしながら、それは多大なる予算措置を伴うものとなりコロナ禍の状況では非常に厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械装備をシェアすることにより、より高いレベルの教育内容を実現している。		B
今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●これまで以上のレベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しを随時教務会議で検討している。 ○昨年度は中止となった、国内・世界最高レベルの技術取得を目指すJL C(日本伐木チャンピオンシップ)が11月6～7日に鳥取県で開催され、1名がヒギナークラスで優勝、もう1名が伐倒部門で優勝するなど輝かしい成績をおさめた。 		B
器具・機械の更新、学習機材・機器の整備及び演習林の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○高性能林業機械については、昨年度購入したフォワードに続き、本年度はウインチ付グラブを9月に購入、素材生産実習に活用するなど実習のレベルが格段に向上した。 ●昨年度当校の裏山に当たる県有林を、演習林へと所管替えしたため、本校グラウンドから演習林につなげる林業専用道の開設を計画したが、8月の豪雨災害により一部被災したため、来年度へ繰越予定。 	林業専用道については被災箇所の再設計を行い令和4年度の開設を目指す。	B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地元企業等から構成された「我ら林大応援団」が設立され、地域を挙げて林大を支援していく組織が立ち上がった。 ●平成29年9月に締結した信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書により、高度な高性能林業機械操作実習を計画していたが、コロナ禍で実施できなかった。 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を2回実施した。 ○岐阜、京都との3林大のチェンソー技術競技が2年ぶりに京都で11月に開催され、18名が参加。チェンソー技術を競うとともに交流を深めることができた。 ○今年度から上松技術専門学校との連携を模索していたところ、2学年の選択コース「木材利用学」の実習を上松技専校で実施した。5日間、のべ14コマ(21時間)にわたり木材加工技術を学んだ。 	新型コロナウイルス感染拡大が拡大しているため、本年度は代替としてシュミレーターを活用した実習を行った。	B
2年生の進路の早期確定と2022年度入学志願者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○一年次から面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう促してきた。またインターンシップや会社訪問などを本人の希望等を尊重しながら実施している。 ○公務員志望者に対しては、教職員がそれぞれの担当分野について放課後に対策講義を実施した。 ○県内の高校の多くに学校訪問を実施し、本校への受験を促すとともに、本校への見学を希望する学生や保護者に対応した。 ○コロナ禍ではあったが、適切に対策を講じた上で「オープンキャンパス」を開催し、本校入学を希望する者には個別相談にも応じた。 ○県外からの受験志望者へは、Web進学相談を開設し対応している。 		B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【継】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○アンケートや小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開している。 ○コロナ禍に対応して、より広い面積が確保できる講堂及び製図室を教室とするとともに、タブレット端末の個別貸与により学習環境の向上を図った。 ○男子寮建替え工事のため中庭が使用できない状況であるが、グラウンド等の有効活用により支障ないよう努めている。			B
		【継】 学生が、自ら考える力を習得できるよう指導できたか。	○学生の自主性を重んじる「自主研究」の充実を図るため、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組んでいる。 ○昨年度から新たに位置づけされた演習林をフィールドとした自主研究活動が展開されている。			B
		【継】 現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	林業士の不足に対し、地域内外からの人材支援を図る。	B	
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが行われたか。	○現場からのニーズの変化に対応し、カリキュラムの変更を検討している。		B	
効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【拡】他大学、地域（木曾青峰高校を含む）、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> ●平成29年9月に締結した信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書により、高度な高性能林業機械操作実習を計画していたが、コロナ禍で実施できない状況である。 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア(株)との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」年2回を実施した。 ○岐阜、京都との3林大のチェンソー技術競技が11月18日～19日に京都で開催され18名の学生が参加。チェンソー技術を競うとともにお互いに交流を深めることができた。 ○今年度から上松技術専門学校との連携を模索していたところ、2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を上松技専校で実施することができた。5日間、のべ14コマ(21時間)にわたり木材加工技術を学んだ。 ○木曾青峰高校の教員と9月に協議の場を設け、今後の連携可能項目の洗い出しを行い、具体的な活動内容を検討していくことになった。 	新型コロナウイルス感染拡大が収束したら高性能林業機械操作実習を計画するとともに、本年度は代替としてシュミレーターを活用した実習を実施した。	B		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】1年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】2年生は2月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は個人面談やインターンシップ等により希望を把握している。 ●2年生は個人面談により就職先を確定できるよう取り組んでいるが、現時点では全員の進路決定には至っていない。 ○インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深める。	進路先の情報を的確に提供し、年内の進路決定に努める。	B
			【継】就職ガイダンスや企業合同説明会、林業労働財団就職説明会などを通じて、円滑な就職への取り組みができたか。 【継】会社等とのマッチングの仕組みは検討できたか。	○学生の希望を叶えるための個別相談を積極的に行った。 ○公務員対策特別講義など充実させた。 ○インターンシップを行うことにより、会社等とのマッチングを図った。		B
		就職・進学の情報提供	【継】学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。		B
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【継】規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【新】教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○コロナウイルス感染防止の観点から、マスク着用、手洗い・手指消毒、換気、ソーシャルディスタンスの徹底等を図りながら、健康な体づくりのため毎朝のラジオ体操、検温、健康チェックを行った。 ○コロナ禍で水無神社例大祭(みこしまくり)、木曾の手仕事市など例年参加している地域活動は、相次いで中止となってしまったが、木曾町役場、きそふくしま保育園、王滝村保育園に学生手作りベンチを寄贈するなど地域とのつながりをできる範囲で行っている。 ○教務会議を4月から翌年2月までに34回開催し、職員間の情報共有や対策の検討が図られた。 ○今年度から専門のカウンセラーを委嘱し、学生の悩み事相談にのっている。		B
			【継】寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【新】教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	●学生の自治活動による学校と国道の間にある花壇の整備(アダプトサインシステム)活動は、木曾建設事務所からの資金が得られたため、本年は実施できたが、学生主体の定期的な手入れには至っていない。 ○代表的な寮の自治活動である寮祭については、コロナウイルス対策を充分に行った上で開催した。昨年度開催できなかったことにより、一から手探りの開催準備となったが、二年生を中心に、学生の自主性を発揮した寮祭となった。 ●寮生活は学生自治の場である、という学生自身の認識が低く、規律ある生活や役割分担が一部おざなりになる傾向が見られた。また、それに対する教務の指導は意識を高めることまで至らなかった。 ○教務会議を通じて、教授間の情報共有を図り、方向性を明確にしながら、学生自治会との情報共有を図ることとしている。	計画段階から学生が関わることにより、学生自治による活動であることを認識させる。 学生一人一人が責任を持つ立場となって寮生活の役割分担を担い、学生自治による寮生活を運営できるよう、教務全体で学生への意識を高めることに、引き続き取り組んでいく。	B
	教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【継】実習等に必要機械・設備は充分確保されているか。 【継】関係機関との連携により、保有していない高性能林業機械分の必要な機械の効率的な利用ができたか。 【継】演習林の整備に向けて、木曾青峰高校や地域の関係者との協議が図られるか	○チェーンソーについては、最新式を一人一台で実習できる体制となっている。 ○労働安全規則改正に伴い、防護ズボン、防護ウエア、防護ブーツ、イアムフ付ヘルメットなど、トータルコーディネートできるように安全装備1式の導入を図った。 ○高性能林業機械の一種であるウインチ付グラブを9月に購入し、実習の充実を図っている。 ○演習林の木曾青峰高校との共同利用について、9月に打合せを実施した。今後はより具体的な取組みについて議論していく予定。 ○地元区長からの相談に基づき、演習林付近のキハダの伐採および皮むき体験などを行った。		B
【継】林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。			○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、新しいチェーンソーの保守点検簿が作成されている。		A	
学校用地や施設の適切な維持管理		【新】学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【継】実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○建築中の男子寮は令和4年2月28日完成。 ○学校スタッフと学生により適正に管理された。 ●施設の維持管理に費用がかかる。	引き続き適切な維持管理のための予算要求を行う。	B	
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	【継】学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。 【継】オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。	○学校案内(パンフレット)及びポスターを令和4年度対応版として作成し、過去に受験実績のある県内高等学校、本校への入学実績のある県外高等学校、県内全市町村、県内林業関係団体等に配布した。 ○オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加人数を制限して実施し、参加者からは「林大生のスコ技披露」に大きな関心を寄せていただいた。また、Web上での学校内バーチャルツアーやWeb進学相談会を実施した。 ○過去に受験実績のある県内高等学校を訪問し、進路指導主事等に面会して本校への入学志願者確保に努めた。 ○最終的には定員を上回る出願があり、令和4年度入学予定者数は定員どおり20名が確保できた。		B
		ホームページの充実を図る。	【継】魅力的なホームページとなっているか。 【継】学校の概要及び取組が適切にPRされているか。 【継】必要な情報提供が行われているか。	○現在情報発信の主流となっているSNS(フェイスブック、Instagram)には学生が主体となって随時更新を行い、多くの「いいね」をいただいている。またオープンキャンパスの内容はホームページ及びYouTubeにも掲載した。 ●引き続き、魅力的なホームページすることが必要である。	新男子寮をはじめとしたバーチャルツアーを充実させるなど、引き続き魅力的なホームページにするよう取り組む。	A
	その他	コンプライアンスの実践が図られているか。	【継】法令を順守しているか。 【継】予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで、法令を順守して実施している。 ○林務部コンプライアンス行動計画に基づき行動している。 ○予算執行については、適時的確な予算施行を行っている。 ●学校運営に必要な費用の継続した確保の対応	引き続き予算確保に向けた取り組みを行っている。	B